

調査期間 2016年3月1日～継続
所在地 秦野市寺山
時代 近世、中世、奈良・平安、縄文
調査原因 中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
遺跡位置 小田急小田原線秦野駅から北方約3kmに位置する。



主な調査成果

遺跡は近世の開墾により、斜面であったところに段切りがつけられ、ひな壇状の地形を呈しています。調査区は上段と下段に分かれています。近世の遺構はひな壇状の地形の上段に畝状遺構と、大きく削平を受けた下段に宝永の廃棄土坑、段切りを検出しました。段切りは溝の縁に人頭大の礫を並べており、類例が少ないものです。中世～奈良・平安時代は、円形土坑や長方形の土坑を検出しました。円形土坑は覆土中に木炭が多量に含まれているものもそうでないものがあり、用途の差が考えられます。長方形の土坑は骨粉が散っており、墓坑の可能性もあります。また、奈良・平安時代では竪穴住居跡を1軒検出しました。



遺跡遠景（近世面）



近世以降 段切り石列



調査区上段 古代面全景



円形土坑 覆土中の木炭